

石巻リサイクリエーション・釜小学校での環境授業についての報告

はじめ

2019年12月より、石巻市立釜小学校での詰替えパックの回収が始まった。これに際して、同年12/17、同校音楽室に於いて4時間目の授業時間を用い、6年生約80名を対象に環境保全とリサイクルの重要性、その具体行動としてのリサイクリエーションの意義や、活動内容について45分間の説明会を行った。

児童の反応はとてもよく、環境保全とリサイクリエーションの関係性を深く理解。自らの活動への参加や保護者、地域住民への回収の働き掛けなど…自分事として“楽しみながら”取り組む旨を確認した。



展開 “地域のみなさを笑顔にしたいイベント”

同校での詰替えパックの回収が始まり、この活動を学区内の住民の方々にも知って頂き、回収への協力をお願いする意味を込めて、2020年2/26同校体育館に於いて“地域のみなさを笑顔にしたいイベント”(地域住民約500名が来場)に、6年生自らがリサイクリエーションブースを出展。

詰替えパック回収の意義と環境負荷軽減の危急性についての展示や説明を行うと共に、ブロックプール等を通じて“おかえりブロック”に直接触れて頂くアトラクションを準備したが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、残念ながらブロックに触れる企画は中止と成った。



しかし、児童たちの積極的な考察から、使い捨て手袋の着用とアルコール消毒の徹底、マスク着用を児童自らが管理し、指導して、希望者を選定した上でのブロック体験を実施した。

うして…翌3月の卒業式を前に、リサイクリエーションは在校生に引き継がれることとなった。

第1回 環境授業 2020.6/17

2020年の新学期は、新型コロナウイルス禍により大幅に遅れ、6/1からと成った。授業の開始と共に釜小学校の担当教諭：藤坂雄一氏から連絡をいただき、今年度も3年生から6年生を対象にリサイクリエーションを通じた環境授業を行って欲しいとの打診を受けた。早速、3年生から6年生の学年担当5名と藤坂教諭を含めた6名と共に授業内容について打合せ。社会、理科、国語と教科を横断するカタチで環境保全について児童自身が取り組む授業に対しての協力を求められた。社会では、温暖化を含む環境の実態把握。理科では、その為のデータ集積と解析。国語は、児童が課題に沿って調べた事柄の報告文の作成との内容で、他では見られない釜小学校独自の授業内容に則り、6/17の4時間目に5年生約50名、5時間目に6年生約70名を対象に授業を行った。



サスデコからは3名が講師として授業にあたり、児童の持つ環境保全への課題や、その為に必要とされる施策などを自らの問題意識として抽出。児童それぞれが研究課題を設定し、資料収集や探究方法を構成する“お手伝い”を行った。リサイクリエーションを通じて、自らが行う詰替えパックの回収による環境保全活動と、そこから見えて来た“持続可能な社会に向けた取り組み”の重要性について、自分事として開始された環境授業は、マスコミからの注目も大きく…この第一回目の授業には新聞3社からの取材を受け、3誌から記事掲載頂いた。



第2回 環境授業 2020.7/10

前月6月の続き、翌7月には3回の環境授業を行った。第2回目となる7/10は4時間目の授業として5年生を対象に、児童それぞれに設定した研究対象に沿って、課題のまとめ方や必要となる資料(文献や図表等)の収集の“お手伝い”を行った。前回の授業の経験から、サスデコからの派遣スタッフを5名に増員。児童の取り組む課題それぞれについて担当を配置。より具体的に取り組む課題が内包する様々な事象について、スタッフと共に整理や資料収集を行った。



第3回 環境授業 2020.7/17

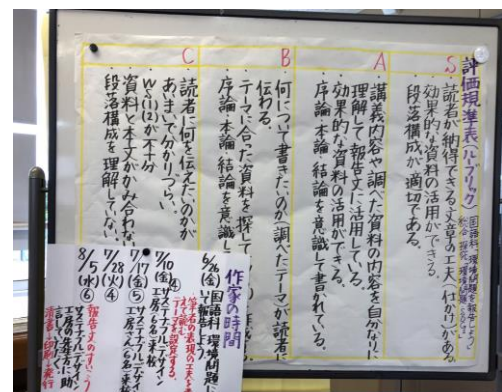
第2回目の授業の翌週7/17の4時間目、5年生を対象に前回同様図書室で開催。この回は、児童からの希望に応じてサスデコスタッフを6名に増員して対応。平日の日中に授業協力者(スタッフ)を集めるには相応の苦勞があったが“学校と地域を結ぶ形で環境保全に取り組みたい”との学校側の授業主旨に理解頂いたボランティアによって、更に児童の探求心に寄り添った事業を実施できた。児童自身の授業への集中は想像以上に強く、探究の過程で浮上する質問は、それぞれに課題をよく理解していて、体系的な学習が進められて居ることが伺えた。



第4回 環境授業 2020.7/28

前回の授業からまた翌週と成る7/28の4時間目、5年生を対象にサスデコスタッフ6名の派遣で実施した。

前回の授業の頃から、探求課題の先に有るものが多岐に渡り、関連する考察項目も多く、思考が錯綜する様子もしばしば見受けられたが、大人が上から目線ではなく、児童の抱える課題や、それをまとめて文章化する苦勞に寄り添いながら進めることによって、成果は確実に積み上げられて行った。この児童の学習意欲と、それによって積み上げられる体系的知性が、ボランティアスタッフのモチベーションを高め、授業全体がとても良い雰囲気で開催された。



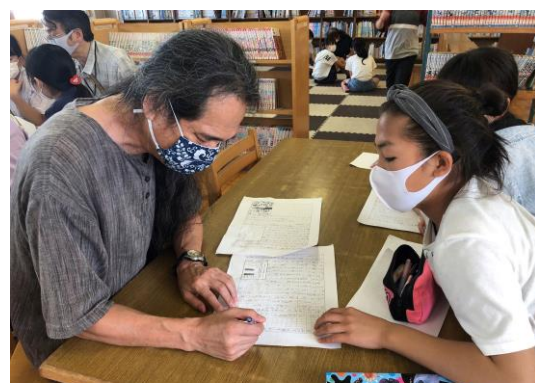
第5回 環境授業 2020.8/5

5年生を対象としては、最終回と成った8/5は6時間目に開催。

これまで、児童自身が自分で設定した課題を基に、研究論文のようなカタチでまとめる報告文の最終仕上げとなる為、サスデコからはスタッフを更に7名に増員して対応した。

これまで、課題に沿ってグループごとにワークショップ形式で意見や方策を出し合い、図書室等に有る文献等から資料を収集して、文章をまとめるプロセスを“お手伝い”してきたが、ようやくこの回をもって、成果物=報告文の完成に至った。

児童が自分で調べる/考えるお手伝いをする/児童それぞれの自発的な探究心を高めることを第一とし、大人目線で“指導する姿勢”に成らないよう、最大限に留意しながらの授業には、この回までに述べ27名のサスデコスタッフが参加し、児童と共に…また、児童たちから…気づきと発見を頂きながら、楽しく共に学習した。児童たちの成果物は冊子として編纂され、石巻市内の図書館に寄贈された。

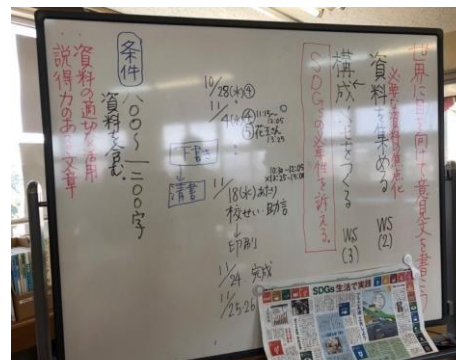


第6回 環境授業 2020.10/28

8/5に終わった5年生対象の授業につづき、6年生約70名を対象に5時間目を行った。給食後の授業であったが、眠気を催す児童は一人も居なかった。石巻市は2020年度から「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」の選定を受けており、6年生の授業では、リサイクルーションと環境保全に加えて、SDGsの内容を盛り込んで行われた。

SDGsの指し示す17のグローバル目標と、自らリサイクルーションとして取り組んで居る、石鹸やシャンプーの使用済み詰替えパックの回収による環境保全活動とを、身近な視点から整理して、児童がそれぞれに自分の取り組む課題を選出した。サスデコからは6名のスタッフが参加し、児童たちと共にSDGsについて、持続可能な社会について、基礎的な課題を協議し、以降の取り組み様式や授業の成果物となる報告文と、そこから設定されるアクションプランについて、共に学び合った。

児童たちは、自分たちが自ら行う詰替えパックの回収と、国連が掲げる達成目標との関連を知ると共に、世界が抱える様々な問題について、やはり自分事として取り組むことの重要性を意識し、以降の探求に於ける問題意識の整理に着手。サスデコスタッフもそれに倣うように共に学び出した。



第7回 環境授業 2020.11/4

石巻市が取り組むSDGsの一環として設定された授業の2回目。サスデコからは、この日も6名の参加。前回整理したSDGsの17の目標について、児童自らが選出した報告文作成に於ける設定課題に沿ってグループ分けし、ワークショップ形式で進行。SDGsの17の達成目標と身近な社会課題や、児童が個人として興味を持った事柄を摺り合わせながら、図書室に有る文献や、場合によってはネット検索を通じて知見を深めた。資料収集を進めながら、文章化に向けた整理や、それに続くアクションプランの設定など、5年生とは異なるカリキュラム構成に、サスデコスタッフは共に楽しく学びながら、必死に児童の探求心について行った。

また、この日には花王(株)の担当者を招いて、5,6年生を対象にリサイクルーションに於いて、おかえりブロックがどのように製作されるのかを説明する講座をリモートと併用で実施。自分たちの取り組む環境保全活動について更に考察を深め、一連の環境授業をより一層深く理解する機会を得た。



第8回 環境授業 2020.11/18

6年生を対象としたSDGsを絡めた授業としては最終回。サスデコからは6名の参加で、児童たちの書き上げた報告文の最終的な構成を確認し、そこから導かれるアクションプランについてのアドバイスをを行った。

5年生よりも対応した授業数は1回少なかったが、報告文は学年が一つ上な分だけ濃い内容となっており、そこから導かれるアクションプランも“啓発ポスターの作成”へと繋がり、重層性を深める内容となった。この報告文とそこからのアクションプランは、翌週に行われる参観日の際、保護者に向けて発表される事になって居たが、新型コロナウイルスの感染拡大により参観日が中止されて、少し残念であった。

